

堺本枕草子の研究

— 目次 —

凡例 … ix

序 章 堺本枕草子の再検討——「再構成本」という視点——

- 一 はじめに … 1
- 二 随想群検討の重要性 … 3
- 三 「類纂本」から「再構成本」へ … 4

第I部 堺本の本文と編纂の方法

第一章 複合体としての随想群とその展開性——暦日順随想群を中心に——

- 一 はじめに … 9
- 二 『枕草子』諸本の系統分類と「類纂」という名称 … 9
- 三 堺本随想群の編纂方法 … 12
- 四 堺本随想群の複合性 … 21
- 五 おわりに … 24

第二章 項目の流動と表現の差異——『枕草子』諸本間の比較から——

- 一 はじめに … 27
- 二 堺本と他系統本間における項目流動の様相 … 28

- (1) 堺本のある項目が、他系統本では異なる章段に含まれるもの … 29
 - (2) 堺本の複数の項目が、他系統本ではひとつの章段に含まれるもの … 54
 - (3) 堺本のある項目が、他系統本では複数の箇所に分けられるもの … 84
 - (4) 他系統本の日記的な記事が、堺本にはない、もしくは分散しているもの … 94
- 三 『枕草子』なるものからの距離感 … 101
 - 四 おわりに … 105

第三章 編纂の特性と構成員

- 一 はじめに … 109
- 二 「たとしへなきもの」関連記事の編纂方法 … 110
- 三 宣孝御嶽参詣説話の位置付け … 115
- 四 おわりに … 121

第四章 類似記事の重出現象と編纂の指向性——『枕草子』諸本間の比較から——

- 一 はじめに … 125
- 二 前田家本「心にくきもの」の段と
「にげなきもの」の段における同一・類似記事の重出 … 126
- 三 三卷本・能因本における同一・類似記事の重出 … 132

- 四 前田家本における同一・類似記事の重出——前田家本の編纂姿勢—— … 139
- 五 堺本の類似記事——堺本の編纂姿勢—— … 161
- 六 おわりに … 165

第Ⅱ部 堺本の本文と生成・享受

第五章 男性に関する随想群の編纂と表現

- 一 はじめに … 171
- 二 「成信の中将は」の段からの抽出 … 171
- 三 男性に関する随想群とその表現 … 176
- 四 堺本に描かれる「婿」 … 183
- 五 おわりに … 186

第六章 「女」と「宮仕へ」に関する記事の編纂と表現

- 一 はじめに … 189
- 二 堺本「女は」の段の検討 … 190
- 三 『枕草子』に描かれた「宮仕へ」をめぐって … 195
- 四 堺本と批評的行為 … 200
- 五 おわりに … 202

第七章	堺本・前田家本における『白氏文集』受容——堺本の随想群と『和漢朗詠集』——	
一	はじめに	205
二	堺本随想群の特徴と『和漢朗詠集』	206
三	前田家本二〇六段における白詩引用	211
四	堺本二〇〇段における漢詩文引用の可能性	214
五	日本における受容	217
六	おわりに	220

第八章 〈雪月夜〉と〈車〉の景の再構成

一	はじめに	225
二	「十二月十日よひの月いと明かきに」の段と一連の随想群をめぐって——	
三	「白」の風景への統一性	232
四	「年老い」た女の登場	235
五	おわりに	238

第九章 堺本宸翰本系統の本文とその受容——前田家本との本文異同をめぐって——

一	はじめに	241
二	堺本の伝本と本文系統の分類	243
三	堺本文と前田家本文の比較・検討	247
	①前田家本・堺本Ⅰ類・堺本Ⅱ類が一致する例	253
	②前田家本・堺本Ⅰ類が一致する例	273
	③前田家本・堺本Ⅱ類が一致する例	275
	④前田家本・堺本Ⅲ類が一致する例	277
	⑤前田家本・堺本Ⅲ類・堺本Ⅱ類が一致する例	317
	⑥前田家本・堺本Ⅲ類・堺本Ⅰ類が一致する例	346
	⑦前田家本が堺本とは異なる本文をもつ例	354
四	本文異同の傾向	396
五	現存宸翰本と林白水所持本	400
六	おわりに	403

第十章 堺本の本文系統とその分類

一	はじめに	405
二	堺本の本文分類に関する先行研究	406
三	諸本の本文比較——山井本・龍門本・河甲本・朽木本・鈴鹿本・無窮会本を対象に——	409

四	無窮会本について	418
五	朽木本・鈴鹿本の性格について	419
六	おわりに	422

第十一章 堺本の成立と生成・享受

一	はじめに	427
二	先行研究と成立論	427
三	堺本の成立と日記的章段の問題	432
四	『枕草子』の享受と堺本	435
五	おわりに	436

終章 まとめと展望

あとがき	445
引用文献一覧	449
索引凡例	459
Ⅰ 事項・人名・書名等索引	459
Ⅱ 『枕草子』章段索引	462

凡例

一 『枕草子』の本文引用および章段番号は基本的に次のものに拠り、第九章を除いて、適宜漢字を当て、歴史的仮名遣いに改め、句読点、濁点、鍵括弧等を施した。また、読みやすいように送り仮名を適宜補い、「給」「侍」等を仮名書きにし、異体字等を通行の字体に改めた。本文に異なる場合、あるいは明らかに意味不通の場合は、他の伝本を参照して私に校訂している箇所もある。

- ・ 堺本：林和比古編著『堺本枕草子本文集成』（私家版、一九八八年）の吉田本本文に拠る。影印版（吉田幸一編『堺本枕草子 斑山文庫本』古典文庫、一九九六年）も参照している。
 - ・ 三卷本：杉山重行編著『三卷本枕草子本文集成』（笠間書院、一九九九年）に拠る。底本は陽明文庫本（甲本）、初段～七六段は岸上慎二氏蔵室町末期書写本（中邨本）。
 - ・ 能因本：田中重太郎編著『校本枕冊子』（古典文庫、一九五三年（上巻）・一九五六年（下巻））に拠る。底本は学習院大学蔵三条西家旧蔵本。
 - ・ 前田家本：田中重太郎編著『校本枕冊子』（古典文庫、一九五三年（上巻）・一九五六年（下巻））に拠る。ただし、章段番号は田中重太郎校註『前田家本枕冊子新註』（古典文庫、一九五一年）に拠る。
- 一 『枕草子』以外の作品を引用する際には、各章の末尾に引用元を明記した。
- 一 論中で研究論文等を引用する際には、たとえば「池田「二九三三」」のように記し、449ページからの引用文献一覧に一括して、論文名（書名）、掲載誌名、発行者名等を明記した。

